



山口 進一 群馬支部 副支部長

今まで補助事業のことを聞かれても具体的には
答えられなかったんですが、
これからはこちらの施設やお店のことを教えられます。

今回は群馬県にあるNPO法人山脈(やまなみ)が運営する障害者就労
支援施設を訪ね、「麦のゆめ」という手作りお菓子の工房や店舗を見学。
同行していただいた山口副支部長には、訪問されての感想や支部につい
てのお話を伺いました。

競輪つてこんなこと やっっているんだ!!

若い選手には稲村、金子というタイトルホルダーを目標に、
群馬王国復活を目指して頑張ってもらいたい。

——施設を見学されての印象はいか
がですか。

「想像していた以上に内容が濃かったです
すし、幅も広くて、とにかく発想力と行
動力に感心させられました。今まで補助
事業といえは病院の検診車とか医療関
係のイメージが強かったのですが、こうい
う地域に密着した施設にも補助が出てい
るんだと今回すごく勉強になりましたし、
こんな身近なところに競輪のマークが
あったなんて、驚きですね」
——こういった施設はなかなか大勢
の方の目に触れる機会が少ないです
が、ぜひ地元の方にも知っ
ていただいで、補助事業を身近に感
じてもらえるとう嬉しいですね。
「そうですね。僕も最近、ファンサービ
スなどでファンの方と接する機会が多い

ですけど、今まで補助事業のことを聞か
れても、実際どこにどんな形で使われて
いるのか具体的には答えられなかったん
ですよ。でもこれからはこちらの施設や
お店のことを教えられるようになったな
と」

——支部のお話も聞かせていただき
たいのですが、今現在の群馬支部の
雰囲気などは?

「今、支部内でメール配信をしてい
て、現況報告だとか競輪界の情報を
速やかに伝えるようにしているんで
す。それもあって、選手たちは競輪
界の厳しい現状だとかもきちんと理
解していると思うんですよ。だからファ
ンサービスの大切さっていうのもみんな分
かってきているし、去年の東日本大震
災の募金活動にしても稲村成浩くん

んかを筆頭にS1のトップ選手が積極的
に参加してくれて。稲村くんには本当に
色々な意味で助けられているんですけど、
そういうベテランに若手も付いて行く
形で、今は本当に雰囲気良くやらせても
らっています」

——山口選手が考えるこれからの支部
のビジョンや、望むことなどはあります
か。

「雰囲気は今現在すごく良いので、この
感じを保ちながら、あとはやっぱり群馬
には稲村くんと金子真也くんという2
人のタイトルホルダーが現役で頑張ってく
れているんですけど、またそれに追いつき
追いつ越してくるような若手が育ってき
ていないんですよ。若い選手にはその2
人を目標にどんどん頑張ってもらって、
群馬王国の復活を目指してほしいなど
思っています」

——最後にファンの皆さんにメッセー
ジをお願いします。

「僕は昔から自転車が好きで、その自転
車を職業にできたので、本当に幸せだな
と思っています。好きな職業をできる限
り長く続けたいですし、そのための努力
は惜しまずしていきたいです。本当に一戦
大切にレースを走っているつもりです
ので、今後も応援してください」